



## 英国総選挙2010: 第一回党首テレビ討論後の「異変」

15日(木)夜に行われた第一回党首テレビ討論の結果を受け、自民党の支持率が急上昇した模様。本日発表のYouGov調査(掲載媒体は大衆紙の『サン』)によると、政党支持率は保守党33%(▲4ポイント)、労働党28%(▲3ポイント)、自民党30%(+8ポイント)と、自民党が躍進して労働党支持率を抜いた(カッコ内は前回15日発表調査との差)。この政党支持率から獲得議席数を推定すると、労働党が過半数には満たない第一党となる(注:小選挙区制および選挙区割りにより、全国平均の政党支持率と実際の獲得議席数の間にはかなりの乖離あり)。

党首テレビ討論での自民党党首ニック・クレグの好パフォーマンスを受け、自民党に対するメディアの関心も急上昇。自民党は、政策的に近い労働党、共に若くエネルギッシュな党首イメージの保守党、双方の支持者層に食い込んでいる。

但し、このYouGov調査は多数ある世論調査の一つに過ぎないので、英国初の党首テレビ討論というイベント直後の「瞬間風速」に終わる可能性もある。また、労働・保守両党は対自民対策を練り直してあと2回の党首テレビ討論に臨むので、勢力バランスがどう動くのかはまだ予断を許さない状況である。選挙戦が俄に活況を呈してきた。

さらに混沌としてきた選挙見通しを嫌気して16日のポンド為替相場は弱含み。

下のロイターのグラフは保守党支持率(青線)とポンド水準(黄線)を示したものだが、保守党支持率低下→ハング・パーラメントの可能性上昇→断固たる財政再建策を取ることが困難になり英国債・為替の信用低下、という連想により、ポンド為替レートは保守党支持率に敏感に反応している。

### Sterling hit by political uncertainty



出所 : <http://uk.reuters.com/article/idUKLDE63E1EN20100415?pageNumber=2&virtualBrandChannel=0>

井上 貴子(問合せ: tinoue@komatsuresearch.com)